

# さくら教室だより

カラー版は九小のHPで公開しています。



令和6年11月15日  
東久留米市立第九小学校  
校長 山本 眞美 枝  
特別支援教室 担任



## 冬になりました



11月7日が立冬だったので、暦の上ではもう冬です。朝晩の気温も下がり、長袖の上着がないと寒いと感じる日が増えました。体調管理をしっかり行い、2学期の残りの日々も元気に過ごして行ってほしいと思います。



### 【第2回 個人面談】

11月5日(火)~11月21日(木)の日程で第2回さくら教室個人面談を実施しています。

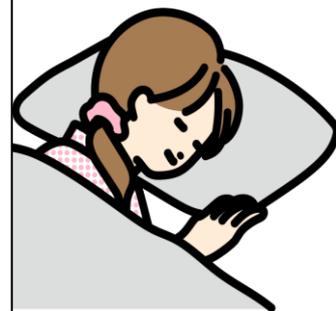
保護者の皆様には、ご多用のなか、ご都合をつけていただきありがとうございます。限られた時間ではございますが、お子様のよりよい成長のための話し合いになるように、努めてまいります。

さくら教室では3学期も面談がありますが、何かご意見・ご相談がありましたら、青ファイルなどでいつでもご相談ください。



### 【規則正しい生活について】

平日は学校があるので、起床・就寝時間が決まっていますが、休日になると起床・就寝時間が遅くなるということは、大人も含めてよくあると思います。ただ、休日に起床・就寝時間が大きく乱れると、学校があるときの生活ペースが崩れ、週の始まりでよいスタートを切れなくなったりします。学校のペースに戻すまで何日か必要ですが、慣れたころにもう週末に、なんてことも……。起床・就寝時間を一定にするだけでも、子どもにとっては大きな支援になりますので、ぜひご協力ください。



# 【さくら教室のちょこっとコラム】



## ○応用行動分析

子どもたちが、よくない行動をとってしまったとき、どのように考えればいいでしょうか。「さくら教室の教員は、こんな風に子どもの様子を捉えて、対応している」という考え方をご紹介します。難しい言い方で【応用行動分析】と言います。これが絶対正解というわけではありませんが、ぜひご参考にしてください。



- ① 一人でいると、Aさんが大きな声で叫ぶ。
- ② 「静かにしなさい」と、注意を受ける。
- ③ 少し静かになるが、また叫ぶ。
- ④ 叫ぶ頻度がどんどん増える。



【うるさくする→注意を受ける】というのは、ごく当たり前のことのように思いますが、実は、この【注意を受ける】ということが、Aさんにとってご褒美になっている可能性があります。以下の図を見てください。

① 誰かに構ってほしい

そもそも【Aさんが叫ぶ】という行動の裏には、どんな理由があるのかを考えます。周囲がうるさくてパニックになっている？ 大きな声を出して周囲が驚くのをおもしろがっている？ などなど。こうではないかと思われる要素を、一つ一つ消しながら【Aさんが叫ぶ】という行動が改善されないかじっくり観察していきます。

② 大きな声をだす

③ 注意という形で大人が構ってくれる

Aさんは、大人から注意されると、どこか嬉しそうで、そのあと落ち着きます。おそらく、大人に構ってほしいことが、【Aさんが叫ぶ】という行動の背景にあるようです。

④ 構ってほしいときは大きな声を出せばいいと学習する

そこで、Aさんが叫ぶ前に、ちょこちょこAさんに声をかけるようにし、短い時間でも静かにできていると、褒めることにしました。すると、Aさんは次第に叫ぶという行動をとらなくなりました。【Aさんが叫ぶ】という行動を注意して消すのではなく、【静かしている方が周囲も関わってくれる】というように、Aさんの行動を書き換えていったのです。

⑤ 叫ぶ頻度が増える

大事なことは、【不適切な行動を消す】のではなく、【不適切な行動を起こす条件を取り除き】、【子どものよりよい行動を強化して上書きする】ということ意識していくことです。